



TITLE:

8.市民と科学の触れ合いの場：青森市男女共同参画プラザ「カダール」(ポスター発表,Session 5.科学教育の未来に向けて,京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」,研究会報告)

AUTHOR(S):

浅利, 智行

---

CITATION:

浅利, 智行. 8.市民と科学の触れ合いの場：青森市男女共同参画プラザ「カダール」(ポスター発表,Session 5.科学教育の未来に向けて,京都大学基礎物理学研究所研究会「科学としての科学教育」,研究会報告). 物性研究 2010, 93(4): 490-492

ISSUE DATE:

2010-01-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169181>

RIGHT:

## 市民と科学の触れ合いの場

### — 青森市男女共同参画プラザ「カダール」 —

青森大学・社会学部 浅利 智行

#### 1. はじめに

市民を対象とする科学啓発活動が全国各地で盛んになりつつある。わが青森市は人口約30万の北国の小都市。男女共同参画プラザ「愛称：カダール」を市民の科学・技術リテラシー醸成の場として皆さんに紹介したい。

#### 2. なぜ「カダール」か

##### (1) 地理的利便性

青森駅前にあるため交通・列車の利便性がよい。物理チャレンジ地方予選会場の参加者をみると

2006年（2名：試験会場自宅）

2007年（3名：試験会場青森市内県立高校）

2008年（19名：試験会場「カダール」）

2009年（17名：試験会場、「カダール」）

以上の参加者数のデータからも地理的利便性効果は明白である。市民を対象とした科学啓発活動の場としても地理的利便性の効果は絶大と思われる。また、遠方（弘前、八戸、むつなど）からの交通アクセスも良い。

##### (2) AV 多機能ホール・青森市民図書館・各種研修室が同一ビル内

①AV 多機能ホールは可動式椅子席300人収容で、科学講演会、科学映画試写会、各種シンポジウム等の活動に幅広く利用可能。大型スクリーン、ビデオプロジェクター、35mm映写機等の設備も完備している。椅子は可動式で収納できるため、平面ホールとして、パネル展示、ポスターセッション、科学機器展示会場としても利用可能である。小・中学生の工作展示会場なども考えられる。すでに絵画展や書展などが開催されている。

②6～8階は青森市民図書館であり多くの市民が利用している。①と組み合わせることによりサイエンス・ブックフェア、科学関連図書の著者を招いてのサイン会なども考えられよう。

③研修室は椅子席80人程度、ビデオプロジェクター等の設備もあり中・小規模の講習会やイベント（展示会、発表会）、学習会などに敵している。すでに「科学のタベ」、物理オリンピック地方予選会場として利用している。このほかに椅子25人程度の小規模の部屋もある。こちらの方は少人数のセミナー室としての利用が考えられる。

④さらに、インターネットコーナー、メディアコーナー等もある。

### （3）インナーパーク

天候・季節に左右されない5階から8階までの吹き抜けで、室内とは感じさせない解放感のある憩いの空間である。市民の情報交換や待ち合わせの場として利用されている。サイエンス・カフェなどで、肩の力を抜いてゆったりと市民と科学・技術について語り合う最適の場ともなりうる。

### （4）託児室

プラザ利用者だけではなく、商業施設および中心市街地への来訪者が利用している。お子さんを伴った講演者の講演会などにも十分対応できる。

### （5）開館時間・駐車場

開館時間は午前9：00から午後10：00まで年中無休（ただし、年間12日の館内定期点検日は除く）、駐車場も利用者には割安になっている。実際、科学オリンピック地方予選は全国一斉（日曜日：午後）であり、この点「カダール」の存在はありがたい。今年の物理オリンピックには五所川原地区（車で60分）から生徒さん2名を引率して下さった先生がいた。駐車場があって助かったとのこと。駐車場はビル内にあり、冬でも安心である。

## 3. 科学啓発活動の場としての利用

予算的なハードルもあるが、以下のことを考えている。

- ・科学コンテスト地方予選会場として

物理チャレンジ・地方試験会場としてはすでに利用している。さらに2010年1月11日（成人の日）には数学オリンピック地方試験会場として利用予定である。今後は化学、生物、と広げたい。

- ・科学映画上映。例えば「映像評伝朝永振一郎」等。対象は子供・学生はもちろん、広く一般市民。
- ・市民図書館と科学講演会とのミッション。たとえばブルーバックスシリーズの著者の講演会とサイン会等や「智のプロジェクト」シリーズの著者を招いての講演会、あるいはサイエンス・カフェ等。

## 4. 最後に：「科学としての科学教育」に参加して

多士済々な方々（科学研究者、社会科学研究者、経済学研究者、理研関係者、企業開発部門、法学関係者、理科教員経験者、現役の教員、各地の科学教育系サークル関係者、大学教育センター関係者などなど）の迫力ある実践例にはただただ感動。また、各講演に対するコメント、懇親会などでの、熱い、それでいて中身の濃い意見交換に圧倒されっぱなしであった。今回の研究会での経験と報告集は小生の宝物になると同時に全国の科学啓発コミュニティに関係する方々の確かな指針となるであろう。今後、科学教育に関心を寄せる方々のネットワークがさらに発展・深化することを祈りつつ関係者の方々に心から感謝します。

## 5. 関連資料

- ・日本物理学会 2004 年秋期大会（於：青森大学）「物理教育シンポジウム」報告  
日本物理学会誌 2004 年 11 月
- ・「今、なぜ、若者の理科離れか ― 科学者と社会との対話にむけて―」  
日本学術会議叢書 10、2005 年 9 月
- ・科学・技術を文化として見る気風を醸成するために：江沢 洋  
日本物理学会誌 2006 年 1 月
- ・青森市男女共同参画プラザ「カダール」リーフレット（カラー版）

：\*補足：「カダール」という愛称は津軽地方の方言「カダる」に由来する。「共に参画する」ことを意味する。